ぷらむニュース
対談no.40

中込眞澄の 笑顔のリレー

中嶋 捷恵さん

「あ、タヌキ！」裏庭にタヌキが2匹、中嶋さん夫妻は顔色も変えずお茶を飲む。やがて2匹は消え、次に3匹が現れて消えた。そのうち私もタヌキの出没を気にせず、団子を食べる。例えれば、隣家の住人が裏庭から時々見える、そんな感じだ。「この間のヤツ、新しい夫じゃないか？」「違いますよ、それは勝手な思い込み」ご夫妻は隣人の噂話をする。

我が家にはいろんな動物がやってくる

ますみ　ご自宅の裏庭には色んな動物がやってくるそうですね。

中嶋　はい。タヌキにアナグマでしょ、リスにキツネ、イタチ、ムササビ、テン、野ウサギ、それから、イノシシ、シカ、あれっ、いくつ言いました？

ますみ　えっと、10ですね。

中嶋　……ん？外来種を忘れている。それとハクビシンとアライグマです。

ますみ　大変な賑わいですね（笑）子供の頃から動物がお好きだったのですか？

中嶋　いいえ、終戦の時、私は小2でしたが、毎日、三角ベースの野球でしたよ。ところが中学生になると、西部劇が好きになりまして、映画の中の大自然に圧倒されましたね。その頃から山歩きをするようになりました。

裏庭を背に

宅地開発で山から追われた動物たち

ますみ　この場所にはいつからお住いですか？

中嶋　もう70年以上になります。

ますみ　動物たちはどうしてこの家に？

中嶋　我家は祖父の代から、食べ残し、今でいう生ゴミを裏庭に捨てていました。それを野鳥や昆虫が食べ、時にはタヌキやキツネも食べていたようですが姿を見たことはありません。ともかく、裏庭は生き物の食卓だったのです。終戦直後の食糧難の時代は卵を得るためニワトリを飼っていたので、裏庭に捨てる生ゴミが少ないこともありましたが。

ますみ　ニワトリの餌に回ったのですね。

中嶋　1979年のことですが残ったパンの耳を裏庭に撒いておきました。

ますみ　終戦から34年たって、パンの耳が残るようになりましたか（笑）

中嶋　ある日、タヌキが一頭やってきたので、驚きました。山にいることは知っていましたが、それまで、人家に来ることはありませんでした。

ますみ　なぜ突然、現れたのでしょう。

中嶋　考えられるのは、その頃から、この辺りの山が宅地造成されたことです。

ますみ　山から動物たちが追い出されたのですね。

中嶋　それから、パン屋さんからパンの耳を分けてもらい、裏庭に撒いてタヌキの様子を見るようにしました。

白タヌキの出現で大騒動

ますみ　ご本業は工場経営でしたね。

中嶋　はい。もとは織物業でしたが、タヌキと出会う5年前に電子機器に転換したばかりでした。

ますみ　お忙しい時期でしたね。

中嶋　はい、不眠不休が続いていた頃でした。ところが工場の私のイスから裏山がよく見えるのですよ。客と商談中にタヌキが見えたりするともう、仕事そっちのけで（笑）

ますみ　経営が順調なのは縁起のいいタヌキのおかげですね、きっと（笑）

中嶋　それから3年ほど経ったとき、体が白い子ダヌキが現れました。

ますみ　珍しい！

中嶋　白いタヌキはいつも親の陰に隠れるようにしていました。その白タヌキのことを多摩動物園に問合せしてみたら、アルビノということらしいのです。

ますみ　先天性の遺伝子疾患ですね。

中嶋　動物園の方が新聞記者に話し、白タヌキの話が新聞に載ると、動物愛好者や写真家、画家などたくさんの人が見せてくれと言ってきました。

ますみ　大変なことになりましたね。

強すぎるラスカル

中嶋　しかし、それがきっかけで、里山を今まで以上によく観るようになりました。するとアナグマやキツネ、ムササビなどもっと多くの、さっき話した動物たちのいることが分かったのです。

ますみ　イノシシ、シカなど体の大きな動物も本当にいるのですか？

中嶋　はい、実際にイノシシに脅かされた人もいますよ。

ますみ　ホントですか！里山で強い動物といったら誰ですか？

中嶋　アライグマとかハクビシンです。

ますみ　どちらも外来種でしたね。

中嶋　特にアライグマは体も大きく凶暴で、里山にもともからいたキツネやタヌキは、たじたじですよ。繁殖力も強く、山の生態系を考えると、アライグマが増えることは困ることなのです。

ますみ　アニメのラスカルはあんなに可愛いのに（笑）アライグマはなにを食べるのですか？

中嶋　雑食です。テン、キツネもそうですがやつらはパンの耳だけでは生きていけない、昆虫やヘビ、カエルなどを食べます。里山に住むほとんどの動物は穴に棲みますが、アライグマやハクビシンは木の上で生活する習性があるので、住宅の天井裏などに巣を作ることがあります。果樹園の果物や農作物を荒らしたり、鳥のヒナを食べたり、害獣と迷惑がられています。

ますみ　外来種はどうして日本に？

可愛い顔してどう猛なアライグマ

家族の絆が強いアナグマ

中嶋　ペットとして飼われていたものが野生化したと言われていますが、人間がしたことの結果とも言えます。

裏山の動物は隣人たち

ますみ　裏山はどこまで続いているのですか？

中嶋　ずっと奥多摩までつながっています。我家はちょうど、動物の棲む山と人間の住宅地との接点になっているのです。

ますみ　動物の観察をしてみて感じたことはありますか。

中嶋　動物たちを隣人と思うようになりました。

ますみ　先日の皆既日食のとき、動物たちに異常はありませんでしたか？

中嶋　注意して見ていたのですが、変わりはなかったですね。

ますみ　地震の時はどうでしたか？

中嶋　地震のその時には特に何もありませんでしたが、不思議なことにその年はタヌキもアライグマも繁殖しなかったのです。アライグマはたまに繁殖しない年もありますが、タヌキはほぼ毎年、子供が生まれるのです。通常は3月が交尾期で5月に出産なのですが。

人間が学びたい動物の子育て

ますみ　他に何か動物たちの珍しい話を教えてください。

中嶋　タヌキには子別れのセレモニーというのがありますよ。10月末、子供が生後5、6ヶ月になると、特に母タヌキは噛みついてでも、子を離します。アナグマは例えば3匹生まれたとすると、子別れの時、2匹を離し、1匹を残します。

ますみ　それは、どうしてですか？

中嶋　ヘルパーと呼ばれる習性ですが、来年の出産、子育てを手伝わせるのです。

ますみ　ヘルパーがいたら、出産も育児もぐんと楽になりますね。

中嶋　タヌキ、アナグマはオス、メスが協力して子育てをしますが、テンとかキツネはメスが主体で子育てをします。動物の生態を観ていると面白く、もう深みにはまりこんだような状態です（笑）

ますみ　克明な観察記録をつけていらっしゃいますが、今後はどのように？

中嶋　子供たちに野生動物の話を伝えたいですね。そうすることで子供のメンタル部分で役に立てればと思います。

ますみ　人間の親も子供もストレスが多い時代です。それは心強い人間の子育てヘルパーですよ。今どきの親子を助けてやってください（笑）

裏庭のタヌキ親子

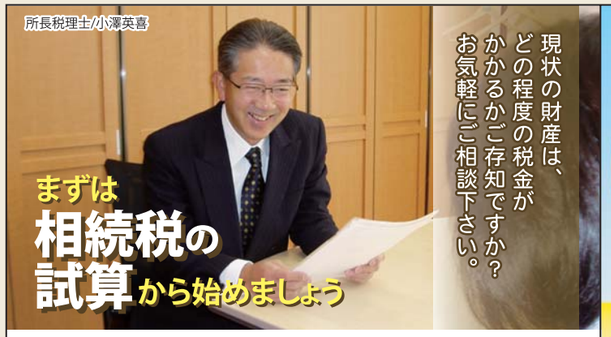
中嶋 捷恵さん

1938年　青梅市（当時は霞村）に生まれる。

父親が営む織物製造に従事するが、織物業衰退に伴い1974年電子機器関係に職業転換され現在に至る。里山の麓に暮らす中、自然の不思議に魅せられる。多くの自然愛好家とも出会い、深みにはまる。良好な自然環境を維持する上から、将来を担う子どもたちに、もっともっと自然に関心を寄せて欲しいとねがっている。著書に「我が家にはいろんな動物（やつら）がやってくる」（どうぶつ社）がある。青梅市根ヶ布在住。

中嶋様、素敵なお話ありがとうございました。さあ、次は誰に会えるかな？

中込 眞澄
なかごめますみ
ぷらむニュース編集長
著書に
『トゥエンティ・イヤーズ』
（発売・丸善）
（株）青梅不動産会長



TKCコンピュータ会計
小澤会計事務所
青梅市師岡町2-36-1
tel.0428-22-7882

人がすべての　街づくり　夢づくり
SEIBU
西武信用金庫

青梅市 店舗一覧

河辺支店	師岡4-12-2	0428-24-1171
千ヶ瀬支店	千ヶ瀬町4-327-2	0428-24-1411
三ツ原支店	藤橋3-3-1	0428-31-1581

年金はＪＡで！
年金お友達紹介
キャンペーン実施中！
あなたの期待に笑顔でお応え

ＪＡ西東京
http://www.ja-nishitokyo.or.jp
本店　〒198-0032　東京都青梅市野上町 2-21-5
TEL0428-22-2176　FAX0428-23-1493